

「御国が来ますように」パートⅡ

マタイ6：10

堀田修一 22・7・3

- I 主の祈りは、祈りの中で最も素晴らしい祈り。すべての原則、要素が含まれている。それは神である主イエスが教えられた祈りだから。これまで説教した内容を思い起こしたい。「天にいます（天と地を創造された偉大なお方。天と地のすべてを支配しておられる摂理、ご計画の神、全能のお方）私たちの父よ（本来、近づけないほどの偉大な方が、主を信じる者を神の子どもとして愛してやまない、暖かい完全な親。神の子どもとされた私たちに恵もうと待っておられる全く正しく深い愛のお方）。御名が聖なるものとされますように（御名、神御自身が、世界で唯一の本物の神として聖別され、御名が崇められますように。私たちは、唯一まことの神を崇め礼拝するために神に造られ、救われた。神は私たちが御名を崇め賛美し感謝し神を礼拝するのを最も喜ばれる。地上でも天国でも）。御国が来ますように（御国＝神の支配が私たちの心に来ますように。私たちが、主イエスを主、神、ご主人と信じ、主を心に迎えるとき、私たちの心に神の国が宿る。自分の罪を告白し続け、主を心の王座に迎え続けるとき、神の国は、私たちの心で広がり、神の支配領域は広まる。神を崇める礼拝、主を中心とした祈りや交わりの中に神の国が存在している。福音の世界宣教により救いが広まり、世界の一人一人の心に神の国が来ますように）。このような意味を込めて心から主の祈りを祈り続けたい。
- II 「御国が来ますように」の完成の面（パートⅡ）、最終的に成就する永遠の御国について本日は掘り下げたい。新約聖書は、やがて時が満ちて主イエスが再臨され、神の国が完成することを断言している。主イエスは、御国の到来は、ご自分の再臨と密接な関係があることを明らかにされた。「人の子（主）が御国とともに来るのを見るまでは、決して死を味わわない人々がいます」マタイ16：28。ご自分の再臨は、「いなすまが東から出て、西にひらめくように」（24：27）「大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗ってくる」（：30）と予告された。再臨に続いて、すべての人々がよみがえらせられ、神のさばきが始まる。主イエスはご自分の羊（主を信じた人々）を右に置いて「さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい」と言われる。マタイ25：34。しかし、自分の罪を悔い改めず、主イエスを信じなかった人々には「のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたち（悪霊たち）のために用意された永遠の火に入れ（永遠の苦しみ、滅び）」と最後の宣告を告げられる。マタイ25：31－46。こうしてすべての悪の力は滅ぼされ、神の国、神の支配が永遠に確立される。一切の悪と悪の力、争い、戦争がない、神の正しさと神の愛と平和、平安が溢れている永遠の神の国（神の支配）は、何と素晴らしいことだろう。私たちは、この素晴らしい神の国に入れる主の救いをいただいている恵みを心から喜び、神を賛美しよう！主の再臨のみことばを読みたい→「イエスにあって眠った人たち（主を信じ地上で死を迎え天国にいる人々）を、イエスとともに連れて来られるはすです。…生きています私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たち（先に天国に行っている人々）より先になることは決してありません。すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そし

てまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります」Ⅰテサロニケ4：14－17。「新しい天と新しい地を見た。…『見よ、神の幕屋（臨在）が人々とともにある。…神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである』黙示録21：1－4。のこれは歴史の終着点。完成。その時が来たら、私たちは、もはや「主の祈り」をささげる必要がなくなる。祈りが成就したから。しかし、神の国が実現する主の再臨の日まで、私たちは御国の完成のために祈り続ける必要がある。それが、本日の「御国が来ますように」という祈りである。

Ⅲ では、主の再臨による神の国の完成は、いつ成就するのか。

1. それは人間には誰も分からない。主イエスは、その時は神のみが知ることであると言われた。主の再臨の時は、盗人のようにやって来るので、目を覚ましているように警告されている。マタイ24：36－42。その時が神のご計画の中で定められているのであれば、なぜ「御国が来ますように」と祈る必要があるのか。ここに祈りの奥義がある。その答えは、主が、「御国が来ますように」と祈りなさいと命じられたからである。聖書の最後の書、黙示録の最後の章、22：17でも語られている。「御霊と花嫁（主の花嫁である教会）が言う。『来てください。』これを聞く者も『来てください』と（キリストに）言いなさい。「これらのことを証しする方（主）が言われる。『しかり、わたしはすぐに来る。』アーメン。主イエスよ、来て下さい」22：20。主イエスの約束と神の民の切望が一体となる。主の再臨により、神の民により2,000年祈られてきた「主の祈り」が成就する。御国の完成は、主を信じる私たちのすべての願いが成就するとき。私たちの罪、悪との戦いは終わりを告げる。もはや罪の苦々しい思いを抱いて悩むこともなく、その悪の力から完全に解放される。このような時を、私たちは、どんなに願っていることか！罪との戦いだけではなく、あらゆる痛みと涙に別れを告げ、すべての病は癒され、死も、悲しみも、叫びも苦しみもない。黙示録21：4。私たちは、復活して栄光のからだ（完璧に健康な栄光のからだ、罪のない魂とからだ）を頂く。その日、最も栄光に富んだ祝福は、顔と顔を合わせて、神を見上げることができる奇蹟的な恵み！罪あるまま神を見るなら死ぬが神が罪を完全に聖められ神を見る恵みに与る。

2. 主の再臨による御国の完成の時を待ち望んでいるのは、人間だけではなく、神が造られた全被造物である。

①神が創造された「被造物（天と地、宇宙、自然、生物すべて）は切実な思いで、神の子どもたちが現れる（主の再臨によりキリスト者が栄光の体とされる）のを待ち望んでいます。被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります（主の再臨により）。…被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産み（主の再臨による全被造物が新しく産まれる）の苦しみをしています」ローマ8：19－22。

②天の御国の礼拝は、人間と御使い達だけの礼拝ではなく、神が造られた全被造物による礼拝である→「天と地と地の下と海にいるすべての造られたもの、それらの中にあるすべてのものがこう言うのを聞いた。『御座に着いておられる方（父なる神）と子羊（主イエス）に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように』黙示録5：13。「主の祈り」の成就＝「御名が聖なるものとされ崇められますように」。

③66巻の聖書の最初のみことばと最後のみことばの深い関係、意味→最初のみことば「はじめに神が天と地を創造された」創世記1：1。その後、人間が神に罪を犯し、人間が墮落しただけでなく、「大地（全被造物も）は、あなたのゆえに（人間の罪のゆえに）のろわれる」（創世記3：17）結果となった。しかし、神は、墮落した人間と人間のゆえにのろわれた全被造物を見捨てず救いの手を差し出しておられる。その証拠に聖書の最後のみことばは、創世記1：1と繋がっている。最後のみことば＝「主イエスの恵みが、すべての者（原語は、パンタ＝すべてのもの。天と地の万物）とともにありますように」黙示録22：21。天と地を創造された神は、人だけではなく、全被造物を新しくされる「私は、新しい天と地（御国）を見た」21：1。

祈り：「御国が来ますように」